

## 芸術の力

那智勝浦町立宇久井中学校 3年 倉橋 佐和

二〇二二年二月二十四日、ウクライナではロシアによる軍事侵攻が始まった。戦争が続く中、ウクライナ国立歌劇場ではオペラやバレエの公演が続けられているという。空襲警報が鳴ると、公演中でも地下にあるクロークにすぐさま避難しなければならない。この危険な状況の中、なぜ公演は続けられているのか、これが私が最初に抱いた疑問だった。

私は、三歳からバレエを習っている。一度は世界のプロのおどりを観てみたいと思い、中学一年生の冬、ウクライナ国立バレエ団の公演を観に行った。公演を観て私は本当に驚いた。ウクライナが戦争中であることや、戦争の辛さを少しも感じさせることのない力強いおどりだったからだ。公演のあと、私は感動のあまり劇場から帰れないでいた。すると、バレリーナたちが劇場から出てきた。私は思い切って

「一緒に写真を撮ってくれないですか？」と英語で声をかけた。すると

「もちろん！撮りましょう！」

と快く受けてくれ、一緒に写真を撮ってもらった。それからバレリーナたちがバスに乗って帰っていくのを見送った。バスの中から笑顔で手を振ってくれたことが「ウクライナでも頑張ります」という思いが込められている気がして私は思わず泣いてしまった。

公演を観てから私はウクライナ国立バレエ団に興味を持ち、調べるようになった。すると、踊っていたバレリーナの中には、父親が戦争の前線にいる人や、家族を戦争でなくした人もいた。私もバレエを習っているが、これまで自分や家族がいつ死ぬか分からないと思いながらバレエを踊ったことがあっただろうか。家族を失ってもバレエを踊り続けられたらだろうか。そう考えると、バレリーナたちのただならぬ覚悟に打ちのめされた。そして、私は単にバレエに感動したので

はなく、踊りに込められたバレリーナたちの平和に対する強い思いに感動したのだと気づいた。

芸術監督を務める寺田さんの記事に、こんな言葉があった。「踊っている時だけは戦争を忘れることができる。いつか必ず戦争は終わる。苦しい中でも踊り続けないと、戦争が終わった後に何も残らない。苦しい時だからこそ、ウクライナの芸術を守っていくのが私たちの使命だと思うのです。」この言葉を読んで、バレエを踊ること、演劇という芸術を続けること、これが団員のみなさんにとっても、ウクライナに住む人々にとっても生きるための大きな支えとなっているのだと感じた。さらに、「芸術には戦争に打ち勝つほどの大きな力がある」ということに、感銘を受けた。踊っている時だけは戦争のことを忘れられるのは、芸術は人のよりどころであり、人にとってなくてはならないものであるからだと私は思う。だから、ウクライナ国立バレエ団は、どんなに大変な状況の中でも公演を続けることを選んだのだろう。

今もなおウクライナでは戦争が続いている。犠牲者は増え続け、戦争開始から三年あまりがたっても大変な状況が続いていることに変わりはない。それでも、ウクライナには一日も早く平和が来ることを祈って、自分のため、そして人々のために踊り続けるバレエダンサーたちがいる。このことを知ってから私は何ん自由なくバレエを続けられる今の環境に感謝して踊ることを決めた。

平和な世界にするために私たちにできること、それは、様々な国の様々な芸術を知り、その中に込められたメッセージを知ることだと思う。芸術は言語に関係なく心を繋げることができる。だからこそ、世界各国が互いに批判し合うことなく、芸術を通して交流することができれば、戦争のない世界へとつながっていくのではないだろうか。

「芸術は戦争に負けない」

これが、ウクライナ国立バレエ団からの、私たちへのメッセージなのだ。